

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第4号



熊本大学医学部保健学科第5回同窓会総会後の記念写真（平成20年8月2日）

目次	同窓会会長あいさつ	1
	保健学教育部長あいさつ	1
	卒業生の寄稿	2
	在校生の寄稿	4
	同窓会総会議事録	5
	H19年度卒業生の進路状況	6
	国家試験合格状況	7
	保健学科教員の紹介	7
	同窓会会則・細則	8
	同窓会役員	9
	編集後記	9

平成21年度同窓会総会、特別講演 および懇親会のご案内

平成21年8月1日（土）14時より、第6回保健学科同窓会総会、特別講演ならびに懇親会を開催いたします。場所は熊大医学部保健学科です。皆様のご参加をお待ちしております。

住所変更の場合は、下記にご連絡下さい。

TEL：096-382-1177 FAX：096-382-1170

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

熊本大学医学部保健学科1期生誕生 一同窓会の発展

保健学科同窓会会長 田中紀美子 (熊本大学医学部保健学科 看護学専攻)

保健学科同窓会が設立して早くも5年を経過しようとしています。平成20年3月に卒業した1期生は医学・医療の道へ希望を抱いて第一歩を踏み出しております。1期生の皆様は突きつけられる仕事の厳しさにご立ち向かっておられるでしょうか。就職先の先輩諸姉に大変お世話になっていることと思います。保健学科同窓会は、1期生の入学を機に、保健学科の前身である医療技術短期大学部（専攻科助産学特別専攻を含む）、またその前身である医学部附属看護学校、医学部附属助産婦学校、医学部附属エックス線技師学校、医学部附属診療放射線技師学校、医学部附属衛生検査技師学校、医学部附属臨床検査技師学校の同窓会組織が一つの大きな組織になって発足し、さらに平成19年度に教育学部特別教科（看護）教員養成課程の同窓会が加わりました。1期生の皆様は保健学科になって初めての卒業生ではありますが、多くの先輩に支えられていることを忘れず、誇りをもって仕事の厳しさを乗り越えていただきたいと思います。とりあえず初めの1年を乗り越えたら、少しずつ自信がついて良い結果につながります。

熊本大学は、平成16年4月の法人化を機に、各学部・学科単位の同窓会組織を統合した「熊本大学同窓会連合会」を同年10月に発足しました。保健学科同窓会もそのメンバーに加わっています。昨年、関東地区において「熊本大学東京連合同窓会」が設立されました。関東地区の同窓生の皆様には、「東京連合同窓会」に参加し交流を深めていただけたらと思います。

保健学科同窓会総会（毎年8月の第一土曜日、午後2時開催）を同窓会会員の親睦の場にしたいと役員一同努力しています。皆様の寄付金を有効に活用するために、総会后、特別講演を開催することにしています。平成20年度の特別講演は、「百姓医師」説法養生訓でおなじみの竹熊宣孝先生にお願いし、好評を得ました。今後、同窓会総会が同窓生の皆様の良き懇親の場となり、さらに同窓生の輪が広がる機会になれば幸いに存じます。同窓会が今後ますます発展していきますようご協力をお願い申し上げます。

これまでに多くの会員の方々から寄付金をいただき感謝しています。お寄せいただいた方々のお名前と卒業年度を見ながら、皆様の同窓会への思いが感じられ、感謝の気持ちがこみ上げてまいります。お礼の気持ちを込めて寄付者芳名録を同封しました。

会員の皆様の今後の健康とご発展を祈念いたします。

敬 具

大きく変動する医療環境と医療人のチームワーク

保健学教育部長 石丸靖二 (熊本大学医学部保健学科 検査技術科学専攻)

保健学科も平成19年度に第1回目の卒業生を世に送り出すことができました。保健学科同窓会も新しい息吹を迎えてこれまで以上に活動的な交流の場として発展していくことと思います。

現在の社会状況は皆様もご存じのように、これまでとは違った方向に変化しつつあります。科学技術の急速な進歩に伴い、医療機器や医療技術は飛躍的に発展し、高度で多彩な診断技術、検査技術、高速化した医療情報シ

STEMが日々導入されつつあり、医療現場ではその対応に大変な努力をされているものと存じます。また、高齢化への移行に伴う生活習慣病や高齢者特有の慢性疾患の増加と医療費の高騰に直面しているにも関わらず、医療費の削減や医師不足などに代表される医療従事者の不足とそれに伴う過重労働などに悩まされているのが現状だと思います。

このような状況において患者さんに安心感を与えるような優しくかつ高度な医療を提供するためには、われわれ医療人は日々の努力はもとより、お互いに密接なチームワークを組むことにより医療技術や知識あるいは関連した多様な情報の交換が必要です。また、同じ環境にある仲間として助け合うためには、このような同窓会は極めて有意義なものだと考えます。また、本学においてさまざまな面で質の高い学生を養成するにあたって、同窓会の皆様の暖かい支援をいただけることは非常に心強いものがあります。

本学では、20年度から大学院の修士課程が始まりましたが、現在、22年度に開校予定の博士課程の設置に向けて準備中です。学部教育はもとより大学院における教育・研究において、第一線で活躍されている皆様のご協力が不可欠です。今後ともよろしくお願ひします。また、本同窓会は構成員数においても組織体としてのまとまりの面においても熊本大学の誇るべき同窓会であります。皆様方のこれからの活躍を期待しております。



卒業生の寄稿

学生から社会人になって

熊本大学医学部附属病院 看護部

大賀 裕美 (保健学科 看護学専攻卒)

就職してから、半年という月日が流れました。様々な患者さんと接し、技術を必死に覚えながら、あっという間にここまで来ました。まだまだ、上手く仕事ができない自分にへこんで、「ああ、もうだめだ」と思うこともあります。患者さんが名前を覚えてくれたり、「ありがとう」という言葉をもらったりして、励まされて元気をもらい働き続けています。

私は、看護師は優しく温厚で働き者といったイメージを持っていました。だから、パーフェクトな人間じゃないとできない仕事であると思っていました。こんな自分になっていいのだろうかと思つこともありました。実際、失敗することもあり、かちんとくることもあります。それは、自分だけではなく先輩方もそんな思いを持ちながら、働いています。

だから、パーフェクトじゃなくてもいい、気張らずに頑張っていこうと思えるようになりました。

先輩方は、一生懸命悩みながら患者さんのことを考え、こうしたほうがいいのかと話し合ったり、ドクターに相談したりしています。そういう姿を見て、良い仕事だなと感じます。自分がこうなりたいという看護師の理想像は、病棟の中の様々な先輩方の姿です。先輩の背中を見ながら、徐々に近づけられたらなと思っています。

〈これから社会人になるみなさんへ〉

私は学生時代に週4回部活をし、いろいろなバイトをしていました。忙しいな・きついなと思うときもあったけど、すごく楽しかったです。勉強も大切だけど、様々なことを経験して今ある時間を大切にしていっぱい笑って泣いてください。今できることに一生懸命取り組んで楽しんでください。そしてもう一つ、友達・仲間を大切にしてください。頑張ってください、応援しています。

卒業して思うこと

熊本大学医学部附属病院 医療技術部 診療放射線技術部門
 下之坊俊明 (医療短大 診療放射線技術学科卒)

熊本大学医学部保健学科同窓会も本年度で5回目を迎えられたとのことであり、心よりお祝い申し上げます。これもひとえに同窓会を運営していただいている役員皆様のご尽力のたまものであると感じています。私は第1回同窓会を始め、数回この会に出席させていただきましたが、特別講演の内容や同窓生、学生との親睦会など年を経る毎にすばらしい同窓会に成長しているように感じました。

さて、私自身は医療技術短期大学部を平成10年に卒業し、臨床現場には約10年間従事しております。私が学生当時は医療技術短期大学部といってもまだまだ周囲の認知度が非常に低く、同じ熊本大学の他学科の学生にすら「イギタン」って何？何処にあるの？と問われることが多々あったのをよく覚えています。それが今や医学部の一部である4年制学科となり、世間に広く知られる存在になりました。学校名は変わりましたが、同じ学び舎で過ごした同窓生としてとても喜ばしいことであります。

ところで、私が卒業してからたった10年の間にも医療技術は日々大きく進歩しており、10年前には夢のように思えた技術も現実のものとなりつつあります。また実際に現在の学生さんが学んでいる学習内容も私たちの時代とは大幅に刷新されているようであります。医療、医学は様々な分野で日進月歩ではありますが、そのような中で一つだけ変わらないのは、必ずその行き着く先には患者さんという人間がいるということであり、患者さんの喜ぶ顔が見たい、患者さんに早く元気になってほしい、そういった気持ちが我々医療技術者を動かしているということは昔も今も変わりはないと思います。最新の医療を実践する為の知識や技術も非常に大切ではありますが、今後も患者さま中心の医療を実践できる「心」を育てる場所が医学部保健学科であって欲しいと祈念して結びの言葉とさせていただきます。

動物たちに深い深い愛を込めて

熊本大学生命資源研究・支援センター 動物資源開発研究部門 病態遺伝分野
 中村 直子 (医療短大 衛生検査技術学科卒)

医療技術短期大学部の衛生技術学科を卒業して早〇年。もともと、細胞診にあこがれて医技短進学を選びましたが、大学在学時のご縁で、現在の職場に就職しました。私が就職した頃は、動物実験に係わる女性も検査技師も少なかったのですが、最近では、私と同じように大学に付属する実験施設の他、医薬品の安全性試験、生殖工学的手法によって作成される遺伝子組換え動物など様々な分野で多くの女性や検査技師さんたちが活躍中です。大学在学時に仕込まれる臨床検査に関する多くの知識や技術が、実験動物領域でもとても役に立っています。動物を用いた実験は、そこで得られた結果を人に外挿するために精度の高い実験が求められます。そのため、動物の遺伝学的な背景、飼育する環境、動物の感染症等、実験成績に影響を与えると考えられる様々な事をコントロールすることが大切です。遺伝学的、微生物学的にコントロールされた動物は専門の生産業者から入手が可能です。現在CARDでは、温湿度、照明等が管理された環境の中でいろいろな種類の動物が飼育されています。多くのスタッフが様々な仕事を分担しており、私の担当は、飼育されているこれらの動物が飼育中に感染症に罹患していないか調べることで、飼育中の実験動物における病原微生物の検出をおこなっています。

これまで、医学は多くの部分で実験動物に依存しながら発展してきましたが、ヒトが存在し、病気が無くならない以上、今後も動物実験は不可欠です。長くこの仕事に就いていて、実験に使われる動物がかわいそうだという感情はいまだに消えませんが、実験動物をおこなう上で大切だとされる概念：試験管実験への代替、実験動物・動物実験の削減、実験精度の向上、社会への説明責任と共に、この感情を大切にしながらこの仕事を続けてゆきたいと思えます。

在校生の寄稿

保健学科同窓会に参加して

看護学専攻4年 和田 育子

先日初めて保健学科の同窓会に参加させて頂きました。同窓会には多くの卒業生、学生が参加しており、和気藹々とした雰囲気でした。同窓会では卒業生の方同士や先生との話に花が咲き、また学生も卒業生の方から話をたくさん聞かせて頂くことができました。

同窓会では卒業生の方から病院の話を聞かせて頂いたり、また就職一年目の卒業生の方からは、仕事のことや国家試験へ向けての勉強、就職試験についてなど詳しく話を伺うことができました。実際に卒業生の方から聞かせて頂く話はみな貴重なものばかりでした。就職試験のことや勉強のこと、実際の仕事の様子やどの程度忙しいものであるのかなど気になっていることについて丁寧に話して下さいました。卒業後はそれぞれ異なる就職先で働き、また多忙な仕事の中お互いの交流を持つことができる機会を設けることは難しいことですが、同窓会は卒業生同士の交流の場であるばかりでなく、卒業生と在学生の貴重な交流の場であるということを感じました。

今回同窓会に参加させて頂いて、卒業生の方と学生のつながりの重要性を感じました。在校生も同窓会の一員であることを自覚する良い機会となりました。私も来年出席させて頂ける機会があれば、是非参加したいと思います。卒業生とのふれあいを多くもつことができるよう、また後輩の悩みや疑問を一つでも多く解決でき、後輩が勉強や就職活動に集中できるように少しでも多く貢献できるように努めていきたいです。

臨床実習について学んだ事

放射線技術科学専攻4年 伊藤 幸

最終学年の4年になり、5月から7月の3ヶ月の期間臨床実習を経験することになりました。はじめはどんなことをするのかという不安な気持ちでいっぱいだったのですが、現場で働いていらっしゃる技師さんから丁寧に教えていただき、さまざまなことを学びました。臨床の現場ならではの知識や、実際に撮影した画像を見させていただきながらの説明など、臨床実習でなければ得ることが出来なかったことがたくさんありました。講義だけでは分からなかったことや理解が足りなかったこと、また自分自身の勉強不足だったことなど、さまざまな反省すべき点も見えてきました。そういったことがある日には、その日の実習ノートで分からなかったことを復習し、忘れてしまっていたことを思い出すというようなことを行っていました。実習をさせていただくにあって、医療はサービス業であるという言葉通り、患者様のことを第一に考え、患者様の立場にたって不安な気持ちなどを

考えつつ行動する医療従事者としての心構えを学ばせていただきました。また、患者様の呼び込みや、撮影する際のポジショニングの手伝いなどもさせていただき、就職して働くこと実際にはどのようなことをするのかほんの一部ではありますが、把握することができてとてもいい経験になりました。3ヶ月間ではありましたが、貴重な経験ができ充実した臨床実習でした。

大学院で学ぶこと、学ぶべきこと

熊本大学大学院 保健学教育部 検査技術科学分野 修士課程1年

片瀬 達也

現代の先進検査システムは“Push the button”と例えられる。簡便な検査により短時間で精度の高い結果を報告することができるようになり、今もなお進歩している。時を同じくして、臨床検査技師教育の場も大きく変貌し、現在は大学院まで設立されるようになった。その中で、大学院で学ぶ意義はなんだろうか。

大学院の生活の特徴は、大学の学部学生の時と比べると、自由度が増して物事を様々な視点から学ぶチャンスがあり、やりたいことを実現できる可能性があることだろう。大学院生活の中身は、1日のほとんどが所属研究室での研究であり、時間の隙間に講義や演習があるといえる。大学院で学ぶことの中で最も重要なことは研究を行うことであり、自分が指導を受ける教員の研究を、責任を持って情報収集から実験、論文作成まで行うことになる。場合によっては、休日はもちろん、真夜中まで研究漬けとなることもある。講義は数こそ少ないが先端の生命科学や研究について行われ多くのことを学ぶことができる。NatureやScienceを代表とする科学雑誌を読み込み、模擬講義や討論、レポートなどを書いてまとめることもある。時として、教員の実体験やエピソードなどを踏まえて、より深く話し合うこともあり、また難しい問題に対しては一緒に頭をひねり、悩むこともある。

このような生活は、検査技術分野だけでなく、他の理系大学院でもほとんど共通している。残念ながら、当大学院では研究や講義において直接、検査業務に関わる内容はほとんど扱っていない。つまり、大学院で学ぶ最先端の知識や技術は、病院や検査室ですぐに役立つかもしれない。

しかしながら臨床検査技師として大学院で学ぶ意義は少なくない。学部学生時代は、受動的に知識や技術を教えられていた。大学院生になると能動的でないと前進すらできない。意見を理論的に説明する力や能動的に学び取る力、さらに様々な物事に対する課題意識を持つことが重要となる。高い知識や卓越した技術をもつ臨床経験のある臨床検査技師が医学の進歩に貢献できれば、将来の医療界のみならず、生命科学においても必要とされる人材となれるのではないだろうか。

第5回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 平成20年8月2日(土) 14:00~14:30
場 所 熊本大学医学部楷樹会館研修室
出席者数 121名
議 長 増永純夫氏(熊本中央病院検査科技師長)

<総会式次第>

開会の辞
同窓会会長挨拶
保健学教育部長挨拶
議事

1. 平成19年度事業及び会計に関する報告
 - ① 事業報告
 - ② 会計報告
 - ③ 監査報告
2. 平成20年度、21年度同窓会役員紹介
3. 同窓会会則・細則の一部改正案について
4. 平成20年度事業計画(案)
5. 平成20年度予算(案)
6. その他

閉会の辞

【報 告】

14時に前田副会長より開会が告げられ、第5回同窓会総会が開会された。

最初に、田中紀美子会長が会を代表して挨拶を行い、続いて石丸靖二保健学教育部長が挨拶された。

その後、増永純夫氏(熊本中央病院検査科技師長)が総会議長に選出され、議事に従い6項目の議案の審議が行われた。

1. 平成19年度事業報告及び会計に関する報告

田中会長より保健学科のオープンキャンパスへの支援や同窓会会報第3号発行等、1年間の事業が報告された。



同窓会会長挨拶

会計の終中より19年度の会計について決算状況が報告された。この

中で保健学科入学生の会費の納入率が低かったため、当初予算より収入が少なかったとの報告があった。

その後、監事より7月18日に行った会計の監査結果について、報告が行われた。

<質疑>

出席者より、「学生の会費納入率が低い、納入率を上げるために何を行っていくのか」との質問に対して執行部より「未納の学生に対して、毎年、根気強く催促し納入率を上げていきたい」との回答があった。

質疑終了後、採決を行い、出席者の賛成多数で平成19

年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告が承認された。

2. 平成20-21年度同窓会役員紹介

田中会長より紹介があり、参加者から激励の拍手があった。

3. 同窓会会則・細則の一部改正

田中会長より、これまで幹事の中から会計担当を選出していたが新たに会計を独立した役員として選出することや、教育学部特別看護科同窓会の加入に伴い執行部の人数の変更など、改正点の説明・提案があった。



保健学教育部長挨拶

<質疑>

質問等がなかったため、採決を行い、参加者の賛成多数で同窓会会則・細則の一部改正は承認された。

4. 平成20年度事業計画(案)

田中会長より、21年度事業計画(案)について説明があり、昨年行った事業を継続し、第4号の同窓会会報の発刊についての説明があった。

5. 平成20年度予算(案)

20年度予算(案)について会計の終中より説明があった。

<質疑>

質問等がなかったため、採決を行い、参加者の賛成多数で平成20年度事業報告(案)、平成20年度会計予算(案)が承認された。

6. その他

その他の追加議題はなかった。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、「会員一人ひとりが同窓会の発展の為に、協力していきましょう」と挨拶後、降壇した。

最後に、前田副会長より「同窓会は毎年8月の第一土曜日に開催されますので、出席者の同期生にも呼びかけていただき、来年さらに多くの同窓生が総会に参加されますようお願いいたします。」と閉会の挨拶があり、14時30分に終了した。

尚、この後、菊池養生園名誉園長の竹熊宜孝先生の「土からの医療」と題した講演会と、懇親会が行われた。

平成20年8月2日

議事録署名人 前田 浩、春田昭一

特別講演

「土からの医療」

講師：竹熊宜孝氏（菊池養生園名誉園長）
 場所：楷樹会館（医学部体育館横）
 日時：平成20年8月2日（土）14:30～15:30



懇親会



看護



放射



検査

平成19年度卒業生の進路状況について

H20.4.21現在

看護学専攻（卒業生74名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	26
熊本中央病院	熊本県	1
福田病院	熊本県	3
済生会熊本病院	熊本県	3
熊本赤十字病院	熊本県	2
植木町役場	熊本県	1
清流学館	熊本県	1
熊本県庁	熊本県	2
熊本市役所	熊本県	1
玉名市役所	熊本県	1
九州大学医学部附属病院	福岡県	1
久留米市総合管理公社	福岡県	1
浜の町病院	福岡県	3
産業医科大学病院	福岡県	1
福岡大学病院	福岡県	6
国立病院機構九州医療センター	福岡県	1
太宰府市役所	福岡県	1
福岡県大牟田市立平原小学校	福岡県	1
佐世保共済病院	長崎県	1
神戸市医療センター	兵庫県	1
大阪赤十字病院	大阪府	1
静岡県牧之原市役所	静岡県	1
国立がんセンター中央病院	東京都	2
聖路加国際病院	東京都	1
東京慈恵会医科大学病院	東京都	2
東京女子医科大学病院	東京都	1
東京国税局	東京都	1
就職小計		67

(進学)		
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	2
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	1
進学小計		3

放射線技術科学専攻（卒業生28名）		
(就職)		
熊本大学医学部附属病院	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	2
田尻クリニック	熊本県	1
高木病院	福岡県	1
原病院	福岡県	1
戸畑共立病院	福岡県	3
済生会福岡総合病院	福岡県	1
浜の町病院	福岡県	1
国立病院機構九州ブロック	福岡県	1
北九州市役所	福岡県	1
佐賀大学医学部附属病院	佐賀県	1
大分赤十字病院	大分県	1
長崎北病院	長崎県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
近畿大学奈良病院	奈良県	1
京都大学医学部附属病院	京都府	2
淀川キリスト教病院	大阪府	1
東芝メディカルシステムズ(株)	東京都	1
就職小計		22
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	6
進学小計		6

検査技術科学専攻（卒業生29名）		
(就職)		
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本中央病院	熊本県	2
済生会熊本病院	熊本県	1
原内科クリニック	熊本県	1
米原設計事務所	熊本県	1
ファルコバイオシステムズ	熊本県	1
田尻クリニック	熊本県	1
熊本県庁	熊本県	1
国立病院機構九州ブロック	福岡県	1
久留米大学病院	福岡県	1
高木病院	福岡県	1
CRC	福岡県	1
北九州市役所	福岡県	1
アルメイダ病院	大分県	1
株式会社九州メディカルサイエンス	長崎県	1
三菱重工業長崎造船所病院	長崎県	1
佐世保市役所	長崎県	1
市民の森病院	宮崎県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
東小児科内科	鹿児島県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
相良病院	鹿児島県	1
岡田眼科	神奈川県	2
就職小計		25
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	2
日本工学院臨床工学専攻科	東京都	1
進学小計		3

国家試験合格状況

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
看護師	15	80	77	96.3	49,204	44,874	91.2
	16	79	77	97.5	48,299	44,137	91.4
	17	80	72	90.0	48,914	43,211	88.3
	19	65	65	100.0	51,313	46,342	90.3
保健師	19	74	70	94.6	11,055	10,066	91.1
助産師	15	19	19	100.0	1,761	1,694	96.2
	16	20	20	100.0	1,624	1,619	99.7
	17	20	20	100.0	1,600	1,570	98.1
	18	20	18	90.0	1,621	1,529	94.3
	19	14	13	92.9	1,722	1,690	98.1

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
診療放射線技師	15	38	37	97.4	2,505	1,851	73.9
	16	46	40	87.0	2,606	1,868	71.7
	17	37	31	83.8	2,645	1,655	62.6
	19	25	22	88.0	2,444	1,789	73.2
臨床検査技師	15	42	41	97.6	4,931	3,894	79.0
	16	35	33	94.3	4,205	3,164	75.2
	17	37	32	86.5	4,071	2,968	72.9
	19	27	27	100.0	3,997	2,947	73.7

※平成15年度から17年度までは、医療技術短期大学部の合格状況、平成19年度は保健学科の合格状況を示した。

保健学科教員紹介

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：蔦川忠久、前田ひとみ、森田敏子

講師：木子莉瑛、永田まなみ

助教：有松 操

助手：南家貴美代

【看護教育学講座】

教授：花田妙子

准教授：角田俊治

助教：福山美季

【臨床看護学講座】

教授：木原信一、宇佐美しおり

准教授：田中紀美子、谷口まり子

助教：梅木彰子、柊中智恵子、服部多美子、馬場香織、
村上美華

【母子看護学講座】

教授：宮里邦子、山内葉月

准教授：坂梨京子

講師：寺岡祥子

助教：生田まちよ、千場直美、吉田佳代

【地域看護学講座】

教授：上田公代、西阪和子、東 清巳

准教授：永田千鶴

助教：石原千晴、根本博代、松本佳代

◆放射線技術科学専攻

【医用理工学講座】

教授：桂川茂彦、富吉勝美、矢田 繁

准教授：阿部 誠、檜垣 強

助教：船間芳憲、米田哲也

【医用画像学講座】

教授：荒木不次男、尾道三一、富口静二、佛坂博正、
松本政典

准教授：島村正道

助教：肥合康弘

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：石丸靖二、二科安三、羽山富雄、吉永一也

講師：伊藤雅浩

助教：橋本弘司

【生体情報解析学講座】

教授：乾 誠治、棚瀬純男、原田幸一、三森龍之

准教授：石井俊徳、奥宮敏可

講師：宮山幸彦

助教：熊谷エツ子、森 信子

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号 熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は在籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は在籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は在籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は在籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は在籍した者並びに在学生
 - ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は在籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものと

する。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
 - 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
 - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算

- 三 会則の制定及び改廃
- 四 役員を選出
- 五 顧問の推挙
- 六 その他の必要と認める事項

2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。

第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。

第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。

第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。

第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。

第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

第28条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。

2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。

3 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。

4 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。

5 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。

6 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。

7 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

平成20-21年度同窓会役員

名誉会長：石丸 靖二（熊大大学院保健学教育部部長）

会 長：田中紀美子（熊大医学部保健学科看護学専攻）

副 会 長：前田 浩（熊本市民病院中央検査部）

宮里 邦子（熊大医学部保健学科看護学専攻）

理 事：

（看護） 尾山タカ子（熊大保健学科元教員）、谷口まり子（熊大保健学科）、右田香魚子（熊大医学部附属病院）、本尚美（熊大医学部附属病院）、川崎貴代美（熊本市民病院）、坂梨京子（熊大保健学科）

（放射） 勝田昇（熊大医学部附属病院）、荒木不次男（熊大保健学科）、川上恵（済生会熊本病院）

（検査） 増永純夫（熊本中央病院）、続隆文（熊本県赤十字血液センター）、中村直子（熊大医学部附属動物実験施設）

幹 事：

（看護） 木山麗子（熊大医学部附属病院）、古澤智美（熊本中央病院）、石原千晴（熊大保健学科）、大賀裕美（熊大医学部附属病院）

（放射） 肥合康弘（熊大保健学科）

（検査） 熊谷エツ子（熊大保健学科）、春田昭一（済生会熊本病院検診センター）

会 計：終中智恵子（熊大保健学科）、有松操（熊大保健学科）

監 事：山本治美（熊大医学部附属病院）、今村かおる（熊大医学部附属病院）

編集後記

皆様、健やかにお過ごしのことと思います。

第5回保健学科同窓会総会は北京オリンピックの年に開催されましたので、ひとときわ思い出深いものになりました。特別講演として、竹熊宣孝氏の「がん代替え療法最前線—思いつきり長く元気で生きていく—」を企画しました。講演を聴き、元気で長く生きていくことの大切さを改めて考えた人も多かったのではないのでしょうか。引き続き行われた懇親会では、教員、同窓生、在校生が親睦を深めました。とくに、在校生は自分の進路を決めるために、先輩から情報を熱心に集めていました。

最近、核家族や成果主義の普及で希薄になった人間関係を見直し、豊かな人間を築くことが求められています。豊かな人間関係が築かれると、助け合いや協力活動が自然に行われ、その結果、情報共有や意見交換が円滑になり、社会が活性化するとされています。本同窓会を活用して、同窓生間の人間関係を豊かに育んでもらいたいものです。

これまでも、これからも私たちの同窓会が、人材育成支援組織ならびに卒業生の心の拠り所となるように、会員の皆様とともに発展させていきたいと考えています。

今年も、同窓会総会についてのご案内を、熊本大学保健学科のホームページと熊日新聞のタウンページに掲載する予定です。第6回同窓会総会ならびに懇親会（2009.8.1）で、一人でも多くの方とお会いできることを楽しみにしています。

最後に、医療短大閉学記念碑が本館B棟の東側入り口左側に建立されたことをお知らせいたします。ご来学の節には是非ご一見下さい。

保健学科同窓会幹事 熊谷エツ子
（衛生検査技師学校1期生）